

# 佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町川上 佐賀県教育センター 中研修室棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

## 二十一世紀を真の“人権の世紀”に

佐賀県人権・同和教育研究協議会

会長 大野 敬一郎



この度、栗原前会長の後を引き継ぎ、会長に就任しました小城市教育委員会教育長の大野です。2年間副会長として多くのことを学ばせていただき、今年度は会長となり、その責任の重さを痛感しているところです。また、栗原前会長には多大なるご尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、今年度は本協議会が「佐賀県同和教育研究会(県同教)」として発足してから五十一年目になります。この間、「差別の現実に深く学ぶ」をスローガンとして掲げ、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消と人権が尊重される社会の実現に向け、人権・同和教育の推進と啓発に取り組んできました。

しかし、部落差別をはじめとする様々な差別は今なお存在し、多くの人々が差別や人権侵害に深く悩み、苦しみ、心をとても痛めている現実があります。この差別の現実が一番大きな課題です。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、外出・営業の自粛、学校休校、企業等における自宅勤務等の緊急事態対応がなされました。その中で、医療従事者等や社会機能の維持に欠かせない仕事をしている人やその家族が、乗車拒否・入店拒否・通園拒否等の差別を受けていると

いう残念な事例が数多く報道されています。感染のリスクを背負い、患者の命を守り、社会のために懸命に取り組んでいる本来なら応援されるべき人々に向けられたこの差別の理不尽さについて考えた人も多かったことと思います。

これは、すべての人に感染リスクがあり、だれもが被差別の当事者になることが想像できたからではないかと思えます。

これからの時代は、「ウイズ コロナの時代」と言われています。これは、とりもなおさず「差別を考える時代」つまり「人権を考える時代」ということができるのではないかと思います。

「二十一世紀は人権の世紀」ということばがあります。二十一世紀にはすべての人々の人権が尊重され、差別がなくなるすばらしい世紀の始まりなのだという期待のこもった希望のことばでした。しかし、現実には、そのような明るい期待に添うものはありませんでした。

部落差別をはじめとして、いじめ、子どもの貧困、女性差別、障がい者差別、人種差別、ヘイトスピーチ、性的指向・自認に関する偏見・差別など多くの人権問題が、顔が見えないインターネットを使って悪質化・公然化しているという憂慮すべき状況にあります。特に、昨年は県内在住の当

時高校生が「全国部落調査・復刻版」を印刷・製本し、インターネットのフリーマーケットに出品し販売するという事案も起きています。

この様に、偏見と差別が拡散する時代に、今こそ私たちは「自分はどうか行動し、どう生きるのか」を問い、考え直すときがきたのではないのでしょうか。今こそ、まさに、常に自分のこととして捉え、自分のこととして考え、行動するときです。

そして、すべての人が幸せに暮らしていくためにはどう行動すればよいのか考えていく必要があると思います。その判断は、『差別をしている』『差別をしていない』か、だけでなく、『差別を残す』か『差別をなくす』か、という自分自身の自覚と本気度が問われることでもあると思います。

今年度は、各市町や教育の現場では、このような困難な状況の中、よりよい教育・啓発をめざして、内容や方法について研究・実践に取り組まれています。インターネットを利用した新しい形の教育・啓発の取組も発信されています。

改めて、「二十一世紀を真の“人権の世紀”に」をめざして、国民全体が「差別」を自分のこととして感じている今を大きな契機と捉え、人権・同和教育の推進と啓発に取り組んでいきましょう。

新役員一同、会員並びに関係機関・団体等の皆様と力を合わせて、人権が確立した社会の実現をめざしていきたいと思えます。今後とも、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



栗原 宣康前会長

5/15 臨時  
幹事会報告

## 佐同教総会に代わり臨時幹事会を開催…アバンセ会場

「コロナウイルス」の緊急事態の中で、本年度佐同教総会（メートプラザが会場）が開催不可能な為、幹事会（役員会）に議決を委任していただき、議案を審議しました。

始めに、栗原会長から「終息を願いながら各現場段階で人権・同和教育の実践を積み重ねましょう。」と挨拶がありました。議事については、総会の次第に準じて、一号議案から五号議案まで、丁寧に審議しました。

三号議案では、役員改選も提案され、栗原宣康現会長（唐津市教育委員会 教育長）から大野敬一郎新会長（小城市教育委員会 教育長）が承認されました。また、新たに副会長として松本定（伊万里市教育委員会 教育長）田中泰博（唐津市志志中学校 校長）渡邊成樹（佐賀県立佐賀西高等学校 校長）が提案通り承認されました。

主な意見としては、①「本年度事業については、開催できない事業があり収入が見込めない

中で、支出を抑えながら事業を推進しなければならぬ。」②「事業の中止や延期などについて、広報を丁寧に行うこと。」③「総会等の会議が開けない場合に対応できる会則の改正を至急行う必要があること。」などの意見が出されました。

終わりに、大野新会長より「誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざして取り組みを進めましょう。」と挨拶を受けて会を終了しました。

なお、栗原前会長には、二年間にわたり会長として尽力いただいたことへの感謝状が新会長から渡されました。



会議の様子（3密対策）

一つのテーブルに一人座り、マイクを除菌したり、窓の開放やマスク着用したりして開催しました。

## 佐同教の中期ビジョン

研究課題  
2020

今年度、佐同教の総会並びに研修会を開催することはできませんでしたが、総会議案書にて、二〇二〇年度の研究課題について提案させていただきました。二〇一六年度の第三次ビジョンの提示から四年が経ち、この間さまざまな社会状況の変化がありました（「部落差別解消推進法」など差別三法の施行、「佐賀県人

権教育・啓発基本方針」の二次改訂など）。また、「佐賀メルカリ事件」や「学校現場における賤称語発言事象」が発生し、その課題に対する取組についても、まだまだ不十分ではあります。一定の成果がみられるようになってきました。（詳細は、総会議案書二〇一九年度「総括」を参照してください。）

インターネット上では、悪質な差別扇動や書きこみ、誹謗・中傷があふれ、現在も大きな社会問題となっています。また、新型コロナウイルスに関する差別についても、わたしたち自身の課題としてつけつけられました。このような中で、人権に関する学びづくりは、「学校教育」「社会教育」という枠組みをこえて、「まちづくり」の重要な課題となってきました。

「学び」が「意識」を変え、その「意識」が「行動」を変え、「システム（制度）」となっていく。そして、その「システム」が再び「学び」となっていく。このような好循環をつくりだしていくことで、「安心・安全」で「住む喜びや生きがい」を感じ「ふるさとを誇りうる」まちづくりが実現していくのではないのでしょうか。

二〇二〇年度の「研究課題」では、「佐賀県人権教育・啓発基本方針」を柱に、このような人権のまちづくりを佐同教の中期ビジョンとして提起しています。二〇二三年には「県民意識調査」が行われます。さらに、二〇二六年には、六十年に一度の（十干十二支の一つ）「丙午（ひのえうま）」を迎えます。偏見や迷信をはね返す「人権のまち・佐賀県」をめざして取組をすすめていきましょう。

## 県内各地区での取組

### 伊西地区同研からの報告

伊西地区同研では、伊万里市教育委員会と市内で活動されている道徳サークルと協力してコロナウイルスによる差別や偏見を無くすために、教材作成に取り掛かりました。今年四月から開始し、五月には動画教材が完成しました。「わるいのはだれ?」というタイトルで、主人公「さる吉くん」が、母親が病院で勤務しているという理由だけで、「コロナ」と言われ、いじめを受けるという内容です。コロナウイルスの問題は誰に原因があるかではなく、悪いのはウイルスである、ということ訴えるために作りました。

動画は「いまりっ子応援プログラム第十弾 道徳の時間」として YouTube でも視聴可能となっています。小学校低学年でも分かるよう紙芝居形式での教材を作成し、市内のケーブルテレビでも繰り返し放映されました。反響も大きく、東京、神奈川、福岡など遠方からも利用したいという声をいただいております。また、伊西地区の支援教員配置校では、この教材を使用しての道徳の授業実践を行いました。指導案も作成し、夏休み前に伊西地区の各小中学校に配布予定です。



「わるいのはだれ」動画教材のキャラクター

### 唐津地区人同教の活動報告

三密を避けることを前提に、多くの人たちが事業計画を立てることに苦慮していることだと思えます。それでも唐津地区では、書面表決により総会を成立させたり、資料配布で人権・同和教育担当者会に替えたりと知恵と工夫で乗り切っています。不十分な取組ではありますが、貴重な体験や教訓を得られています。

全教職員を対象としていた夏期講座が開催できなくなつたため、ビデオ講演会を計画しました。講師の許可を頂き、講演をビデオ撮影し、各学校に配布します。各学校では、二学期中にそのビデオ視聴をしてもらい、アンケートを提出していただく形式を取ります。三密を避けて、全員研修を確保するためのアイデアです。

輪番で決まった報告校が学校の取組を発表する研究大会については、そのまま来年度に移行します。

このように多くの中止や変更を余儀なくされていますが、成果の面もありました。それは、児童生徒支援教員研修会の充実です。二年以上経験の支援教員が輪番でチューターを務め、それぞれの得意分野であったり、問題意識の強い内容を選択したりと、これまでできなかった研修ができました。自分たちの力量を高めることにつながったと思います。

### 小城市広報「キャンパス」での取組

小城市で毎月出されている広報「さくら」の中に、二、三ヶ月に一度、人権・同和对策室からのコラム欄が設けられています。社会教育指導員の方を中心に人権に関するコラムが連載されています。

「人の目となる盲導犬」 (二〇二〇年二月号)  
「子どもに愛を伝えることの大切さ」 (二〇二〇年三月号)

「同和教育」・「寝た子を起すな論」の考え方 (二〇二〇年六月号)  
これらのコラムは、小城市ホームページで見ることが出来ます。  
<https://www.city.ogi.lg.jp>

### 三神地区第一回エリア研が開催

二〇二一年度に延期された佐同教育研究大会分科会の第一分科会のレポート検討会が六月二三日神崎市役所千代田支所において開催されました。今年度第一回目のエリア研が動き始めています。  
六市町と学校教育で、できることを積極的に探られています。

### 伊万里の伴さん YouTubeで

#### 人権講談配信

『月刊じんけんかわらばん』六月号

「心のウイルスを退治しよう」

【伊万里市教育委員会】

[https://youtu.be/YUvJ\\_ga-FDY](https://youtu.be/YUvJ_ga-FDY)

伊万里市ホームページでも視聴できます。

伴さんとは、伊万里市教育委員会生涯学習課人権・同和教育係の伴康之さんです。各市町の人権啓発の参考にされてみませんか。

※佐同教ホームページもご覧ください。

今だからこそ学校教育・社会教育で活用できる資料がたくさんあります。

## 2020年度佐賀県人権・同和教育研究協議会役員等

<b>会 長</b>	大野敬一郎 (小城市教育委員会 教育長)
<b>副会長</b>	松本 定 (伊万里市教育委員会 教育長)
<b>//</b>	八谷小百合 (佐賀市人権・同和政策・男女参画課 課長)
<b>//</b>	音成 隆 (佐賀市立循誘小学校 校長)
<b>//</b>	田中 泰博 (唐津市立佐志中学校 校長)
<b>//</b>	渡邊 成樹 (佐賀県立佐賀西高等学校 校長)

<b>監 事</b>	松隈 義和 (鳥栖市教育委員会生涯学習課 課長)
<b>//</b>	内田 真弓 (佐賀市立春日北小学校 校長)

<b>顧 問</b>	熊谷 智之 (小城市立岩松小学校 教頭)
<b>//</b>	平田順次郎 (佐賀市立大和中学校 教諭)

理 事		
	学校教育部理事	社会教育部理事
<b>三 神</b>	嘉村 和久 (三神地区人同教会長)	竹下 徹 (鳥栖市生涯学習課 参事)
	平田真由美 ( 〃 研究局長)	合田謙三郎 (神崎市社会教育課 課長)
<b>佐 市</b>	牟田 正徳 (佐賀市同教会長)	堤 智幸 (基山町まちづくり課 係長)
	野方 正人 ( 〃 研究局長)	江頭 優貴 (みやき町社会教育課 主任)
<b>小 城</b>	小森 尚美 (小城市同研会長)	小川 成弘 (上峰町生涯学習課 課長)
	川橋真奈美 ( 〃 研究局長)	加々良隆弘 (吉野ヶ里町社会教育課 副課長)
<b>多 久</b>	下村 昌弘 (多久市同研会長)	馬渡 幸弘 (佐賀市人権・同和政策・男女参画課 係長)
	江口 泰寛 ( 〃 研究局長)	森 慎也 (佐賀市教育委員会 指導主事)
<b>唐 津</b>	原口 毅 (唐津地区人同教会長)	本村 正剛 (小城市人権・同和对策室 副課長)
	江川 勲 ( 〃 研究局長)	白濱 直子 (多久市人権・同和对策課 課長)
<b>伊 西</b>	墨谷 誠一 (伊西地区同研会長)	酒井マスマ (唐津市生涯学習文化財課 係長)
	山口 徹朗 ( 〃 研究局長)	中山 昌直 (玄海町教育課 課長)
<b>杵 武</b>	納塚 定生 (杵武地区同研会長)	伴 康之 (伊万里市生涯学習課 副課長)
	百崎 和美 ( 〃 研究局長)	多賀 和広 (有田町生涯学習課 課長)
<b>鹿 嬉 藤</b>	山口 高弘 (鹿嬉藤地区同研会長)	中川内 昇 (武雄市生涯学習課 係長)
	松本 敬 ( 〃 研究局長)	山口 裕信 (白石町生涯学習課 係長)
<b>高 同</b>	平川 聡 (高同研副会長)	西村 秀昭 (江北町子ども教育課 課長代理)
	原口 正輝 ( 〃 事務局長)	古賀 直 (大町町教育委員会事務局 副課長)
<b>私 学</b>	手塚 秀司 (私学同研会長)	森田 律子 (鹿島市人権・同和对策課 係長)
	北村 里美 ( 〃 事務局長)	山崎 佑希 (嬉野市文化・スポーツ振興課 主事)
<b>人 保</b>	渡辺 康之 (人権保育研会長)	萩原 昭彦 (太良町社会教育課 課長)
	阿野尾亮二 ( 〃 事務局長)	

<b>佐同教事務局</b>	野田 和隆 (事務局長)	<b>佐同教研究局</b>	中原 博文 (研究局長)
	馬場 智子 (事務局員)		野口 明宏 (研究局次長)
	北川 哲徳 (社会教育担当)		嬉野 一紀 ( 〃 )

<b>佐賀県教育センター</b>	松本 英将 (小学校担当指導主事)	林 秀樹 (中学校担当指導主事)
	小山 洋一 (高等学校担当指導主事)	